

15 説明的文章2 全体と部分の関係

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

夕なぎというのは昼間の海風から夜間の陸風に移り変わる中間に、一時無風の状態を経過する、その時をさして言うのである。従って夕なぎが完全に行われるためには、低気圧による風や、また季節風のごときが邪魔をしない事が必要条件である。

夏期瀬戸内海地方で特に夕なぎが著しいのはどういうわけかと思つて調べてみると、瀬戸内海では、元来どこでもいったいに強くない夏の季節風が、地勢の影響のために特に弱められている。そのため海陸風が最も純粋に発達する。従つて風の変わり目の無風が著しく現われるのである。夕なぎに対して、朝なぎもあるが、特に夕なぎの有名なのはそれが気温の高い時刻であるがためであらう。

夕なぎの継続時間の長短はいろいろな事情にもよるが海岸からの距離がおもな因子になる。すなわち海岸から遠くなるほど夕なぎが長くなるわけである。

東京では、夏の暑い盛りに天気の良い日だと夕方涼しい南がかつた風が吹くので、瀬戸内海地方のような夕なぎの苦しみを免れている。八月ごろの東京の風の一日じゅうの変化を調べてみると、やはり海陸風に相当する規則正しい風の周期的変化があるが、ただ東京では日々変化の位相が著しくくずれているのと、夏期の南東の季節風がかなりよく発達しているために、夕なぎに相当する時刻にはこの季節風のほうが著しく現われて来るのである。

いったい地球の雰囲気(ふんいき)が太陽のために周期的にあたためられるために雰囲気全体の振動が起こり、それが一面には気圧の周期的変化となり、また一面には地球上至るところの風の周期的変化として現われるはずである。たとえば地球が全部大洋かあるいは陸地におおわれているたらこういう原因から起こる一日じゅうの弛張(しちちやう)が純粋に現われるかもしれないが、日本の沿岸のような所では地方的な海陸風に相当するものが、各季節を通じてあまりに著しく発達して、上のような地球に関するものがほとんど全くおおい隠されているように見える。

(寺田寅彦「海陸風と夕なぎ」から)

